

埼玉学園大学・川口短期大学 機関リポジトリ

ニューヨーク市『音楽における指導と学習計画』に関する一考察：初等学校第2学年の指導法を中心に

著者	宮崎 真利子
雑誌名	埼玉学園大学紀要. 人間学部篇
巻	17
ページ	323-330
発行年	2017-12-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1354/00001105/



ニューヨーク市『音楽における指導と学習計画』に関する一考察 — 初等学校第2学年の指導法を中心に —

Blueprint for Teaching and Learning in Music by New York City Department of Education
with a Focus on Teaching Method for 2nd Grade

宮崎 真利子
MIYAZAKI, Mariko

はじめに

アメリカ・ニューヨーク市では、世界中のアーティストが集まって音楽活動を行っている。そのため、同市ではクラシックからポピュラー音楽まで、多様なジャンルの音楽や演奏を聴くことができる。では、同市の公立小学校では、どのように音楽を学習しているのだろうか。本稿では、ニューヨーク市が独自に作成した芸術学習標準『芸術における指導と学習計画 The Blueprint for Teaching and Learning in the Arts』(2004)の『音楽における指導と学習計画 The Blueprint for Teaching and Learning in Music』(2004)を資料として、ニューヨーク市の公立小学校第2学年の音楽教育について考察する。

1. 『音楽における指導と学習計画』の概要

ニューヨーク市教育課は、『芸術における指導と学習計画』を2004年に作成し、試行期間を経て2005年6月に正式に採用した。『芸術における指導と学習計画』は、『全米芸術教育標準 National Standards for Arts Education』

や、ニューヨーク州の『芸術のための学習標準 Learning Standards for the Arts』に基づいている。『芸術における指導と学習計画』は、公立学校がニューヨーク市内の芸術家団体と協力して指導計画を進めていくところに特徴がある。これは、ダンス、音楽、演劇、視覚芸術、動画の5つに分類されており、生徒児童は、芸術科目を学校内のみならず、芸術家や芸術作品との関わりの中で学習していくのである。

(1) 『音楽における指導と学習計画』の改訂

『音楽における指導と学習計画』は改訂を経て2015年に第3版が発行された。初版では、ニューヨーク市教育課とメトロポリタン・オペラ、ジャズ・アット・リンカーン・センターなどの、音楽団体の関係者が中心となって作成している。第2版(2008)では、音楽批評家や大学教授などの音楽の専門家がより多く関わって改訂している。第3版では、さらに実用的になり、幼稚園入園前の幼児への指導方法のほか、障がいを持つ者や、英語を学習中の外国人に向けた、様々な状況での指導法

キーワード：音楽教育、音楽鑑賞、ティーチング・アーティスト
Key words : music education, music appreciation, teaching artists

や指導方針が記載されている。

このように、『音楽における指導と学習計画』は発行以降、時代や状況に応じて改訂を重ね、より実践的なものへと変化している。

(2) 『音楽における指導と学習計画』の構成

『音楽における指導と学習計画』は、「課題を基にした Subject-based」カリキュラムと、「成果を基にした Outcome-based」カリキュラムから成る。前者は、各学年で学習目標を明確にし、その目標を達成するためのカリキュラムである。後者は、学習者自身が各々に目標を設定し、その目標に到達する過程で得べき知識や技術を認識することを目的としているものである。すなわち、学年全体で設定した目標と、個人毎に設けた目標の、両方を組み合わせたカリキュラムで作られている。

『音楽における指導と学習計画』では、幼稚園から第2学年まで、第3学年から第5学年まで、第6学年から第8学年、第9学年から第12学年までの、4段階に分けて指導目標を設けている。『音楽における指導と学習計画』には、各段階の最高学年である、第2学年、第5学年、第8学年、第12学年の指導計画が記載されている。

(3) 音楽学習における5つの構成要素

『音楽における指導と学習計画』では、「音楽学習における5つの構成要素 The Five Strands of Learning in Music」として以下を挙げ、学習指導計画を作成している。

①音楽づくり Music Making

児童生徒が音楽を探求、創作、再現し、観察することによって、技術力や表現力の基礎をつくり、芸術性を育む。児童生徒は、音楽

が世界共通の言語であり、すべての文化において、表現の遺産であることを理解する。

②音楽教養 Music Literacy

児童生徒は音楽言語や美学の実用的な知識を発展させ、その知識を分析や、評価、実証、創作、演奏に応用する。

③他分野との関連付け Making Connections

歴史的、社会的、文化的分野からの研究や、音楽と他の分野の共通の主題や原理を調査することにより、児童生徒は創造的な学習や、人類の思想や表現の進化における音楽の重要性を理解する。

④社会的・文化的資源 Community and Cultural Resources

児童生徒は、プロの芸術家や芸術団体との関わりや、幅広く多様なジャンルの演奏を鑑賞することによって、視野を広げる。公立学校とニューヨーク市の幅広い音楽・文化団体との提携は、児童生徒の音楽学習や創造力のための十分な土台となる。

⑤職業と生涯学習 Careers and Lifelong Learning

児童生徒は、音楽領域や音楽に関連した職に就くことを将来の目標として検討し、音楽事業を支えるための様々な職業があることを理解する。また、児童生徒は、音楽を学習することにより、生涯を通じて音楽を楽しむ。

『音楽における指導と学習計画』では、①を各学年のカリキュラムの冒頭に置いている。そして、②～⑤は①に由来するものであり、②～⑤の活動は①に結びつく、としている。つまり、すべての音楽学習は「音楽づくり」から由来している、としている。

2. 小学校第2学年の音楽教育

『音楽における指導と学習計画』では、小

学校低学年の指導例として、第2学年の指導計画が書かれている。「音楽学習における5つの構成要素」の各項目から、第2学年の学習内容を、さらに詳しく検討する。

(1)「音楽づくり」の指導内容

「音楽づくり」では、以下の評価基準と学習成果を設定し、具体的な活動目標を挙げている。

◆評価基準：児童は音楽を体験するための活動に従事する

児童は次のことができるようになる：

- ①反復した、または対照的な様式の音楽を演奏する
 - ②コール・アンド・レスポンス、手拍子、コツコツ叩く、といった動作を通して様々なテンポで一定の拍を保持する
 - ③一定の拍に対して、リズムパターンを作る
 - ④2拍子、3拍子で演奏する
 - ⑤歌唱、動作、表示された音高を通して、旋律の音調曲線を探す
 - ⑥多様な強弱のレベルで音楽を演奏する
 - ⑦様々な楽器や、声を使い異なる音色を探す
声楽曲を学習する場合、児童は次のこともできるようになる：
 - ①様々な音楽ジャンルから歌を歌う
 - ②囁く、話す、叫ぶ、歌う、4つの異なる声を使って区別する
 - ③頭声の適切な使い方を模倣する
- 器楽曲を学習する場合、児童は次のこともできるようになる：
- ①多様な文化の歌を伴奏する
 - ②音高のある楽器と、音高のない楽器を使って強弱と音色の使い方を実演する
 - ③伝統的な楽器と、拾得物や自家製といった非伝統的な楽器で、音質の幅を認識する

ここでは、演奏を通じて拍子や、規則正しいテンポを感じることを目標としている。また、強弱や音色の変化を感じることもねらいとしている。これらは、演奏表現するために必要な基本的な技術であり、児童それぞれが、音をよく聴かなければ、その変化を感じることはできない。

◆評価基準：児童は音楽を作る過程で、人間の表現の意識を身につける

児童は以下のことができるようになる

- ①ソロとグループの設定で、感情や音楽的解釈に配慮して、演奏する
 - ②主題の題材で、即興演奏することによって、自分自身を表現する
- 声楽曲を学習する場合、児童は次のこともできるようになる：
- ①感情や音楽的解釈に配慮して、英語や他の言語で歌を歌う
 - ②ソロまたはグループの歌手として、動きのゲームに参加する
- 器楽曲を学習する場合、児童は次のこともできるようになる：
- ①感情や音楽的解釈に配慮して、楽器を演奏する
 - ②ソロまたはグループの楽器奏者として、動きのゲームに参加する

ここでは、演奏で表現する重要性が書かれている。歌唱や演奏の活動を通じて、児童自身が感じとったことを、音楽の表現に生かすことを目標としている。

◆評価基準：児童は歌う声を発見し、歌唱と演奏のテクニックを構築する

児童は次のことができるようになる：

- ①歌い、演奏し、動いている最中に、音楽の合図に従う
- ②自分自身で音楽の選択をするために、演奏

する技術を当てはめる

③声や楽器の探求を通して音楽の選択をする
声楽曲を学習する場合、児童は次のこともできるようになる：

- ①声を作り出す身体的な知覚を伸ばす
- ②正しい身体や声のスタミナの調整が、呼吸や声のトーンに影響するかを実演する
- ③増大する声のスタミナを表現する
- ④声の技術の表現が、どのように演奏に影響するか説明する

器楽曲を学習する場合、児童は次のこともできるようになる：

- ①楽器を演奏する身体的な知覚を伸ばす
- ②音質に配慮して、様々な楽器を演奏する
- ③楽器の技術の表現が、どのように演奏に影響するか説明する

ここでは、声楽や器楽の技術的な面を挙げている。音楽の基本的なテクニックが、どのように演奏に影響するのかを考え、技術の修得の重要性を理解することを目標としている。

◆評価基準：児童は楽器、音楽資料、学習環境に敬意を示す

児童は次のことができるようになる：

- ①教室や、声／楽器の適切な手入れや管理を示す

児童は自然の素材で作られた楽器や、人間の声を使って音楽を演奏することを認識し、楽器を尊ぶ。

◆評価基準：児童は積極的に音楽的経験に貢献する日課を学ぶ

児童は次のことができるようになる：

- ①演奏者や聴衆としての礼儀正しい振る舞いを実演する
- ②教室では、音楽づくりのための礼儀作法と伝統の中で参加する

ここでは、児童に演奏者として、また聴衆と

しての両方のマナーを得ることを目標としている。

さらにこれら5つの評価基準を満たすために、以下のような指導例が書かれている。

- ①黒人霊歌の《ヨンダー・カム・デイ Yonder Come Day》のような歌を学び、歌い、演奏する。円になって、強弱を変えながらユニゾンで演奏する。形式、拍子、テンポを明確にする
- ②限定したガイドライン（例：3つの音高と2つの音色を使う）の中で、教室の電子楽器を使い、短いABA形式の曲を作る。各部には対照的な要素を入れることに配慮する
- ③物語に基づいて、物語の本質をつかむようなサウンドスケープを、伝統的、非伝統的な楽器を使った合奏で作る
- ④リコーダー、木琴のような旋律楽器や声を使って、簡単な「問題」と「答え」のフレーズの即興演奏をする
- ⑤演奏をやめる、弾き始める、大きくまたは小さく演奏する、スタッカートまたはレガートで演奏する、といった、与えられた指示に対して、適切な音楽的反応をする
- ⑥様々な動物の鳴き声の音に配慮して《ゆかいな牧場 Old MacDonald》のような馴染みのある歌を歌う
- ⑦《フレール・ジャック Frere Jacques》のような簡単な曲を、音高がある打楽器と、ない打楽器を使って、オスティナートの伴奏を即興する

指導例では、即興演奏が使われている。「演奏を始める」「止まる」といった、合奏する上での基本的なルールの中で、調性にとらわれず、自由な音を演奏させているところが特徴である。

(2) 「音楽教養」の指導内容

◆評価基準：児童は下記の分野で音楽を探求する

児童は以下のことができるようになる：

〈要素、記譜、用語〉

- ①言葉、動き、視覚的映像を通じて音楽の基本的な要素を表現する
- ②音と記号を結びつける
- ③伝統的、非伝統的記譜を使って、特定の音の基本的な図を用いた表現を認識し、創作する
- ④適切な用語を使って音楽的経験を説明する
- ⑤音楽の要素を比較し対比する
- ⑥簡易なリズムの一例を、創作、または描く
- ⑦代表的な旋律的曲線、または音高を作る
- ⑧正式な音楽の記譜（譜表、小節、小節線、簡易なリズム記譜）の要素を理解する
- ⑨「速い／遅い、うるさい／静か、高い／低い」を明確にし、比較をする
- ⑩録音された、グループの演奏を批評する（速すぎる／遅すぎる、うるさすぎる／静かすぎる、正しい／間違った音程）

〈ジャンルと形式〉

- ①異なる様式の音楽を識別し、説明する
- ②感情的で表情豊かな音楽と歌詞の特性を明確にし、説明する

〈楽器、発声、アンサンブル〉

- ①合奏のグループ分けを明確にする
- ②声種と、どのように鳴り響くかを分類する
- ③楽器と音の作り方を分類する

〈創作、テクノロジー〉

- ①聴衆としての適切な態度を実演する
- ②演奏の中での参加者の役割を説明する
- ③様々な種類の音楽の演奏を明確にする
- ④録音、または演奏を通じて、音楽の心をとらえ、共有する

上記の評価基準では、基本的な音楽知識を学ぶ他に、音楽鑑賞する際の、様々な要素の「違い」に重点を置いている。音楽を「速い／遅い」「うるさい／静か」といった表現で比較し、楽器や声種の違いを聴き分けられることを目標としている。この音楽の様々な「違い」を感じ、説明できることが、音楽を議論し、批評するための初歩的な手法になると考える。

ここでは、以下のような指導例が記載されている。

- ①メキシコの童謡クリクリ Cri-Criから《エル・チョリートEl Chorrito》といった歌を聴き、歌う。動きや芝居を通して歌詞を表現させる。
- ②交響曲や室内楽曲の録音を聴き、「楽しい」「悲しい」「怖い」「面白い」といった言葉を使って、その音楽の気分を答えさせる。
- ③ゴスペル《私の小さな光 This Little Light of Mine》といった歌を、異なるアーティストやグループの歌唱で聴き比べをさせる。
- ④セルゲイ・プロコフィエフの《ピーターと狼》を聴き、テンポや拍子、強弱、形式の変化を、動きを通じて反応させる。音楽が流れている間に、登場人物のようになって物語を演じさせる。

上記の指導例では、音楽を聴きながら身体を動かし、演じさせる活動が多い。また演奏者による表現の違いを聴き比べさせる活動もある。クラシック音楽のみならず、ゴスペルやメキシコの童謡を使い、早期から幅広いジャンルの音楽を使用するところが特徴である。

(3) 「他分野との関連付け」の指導内容

◆評価基準：児童は、音楽が作曲家の感情や思想、創造力や文化的背景に反映していることを認識する

児童は以下のことができるようになる：

- ①作曲家の役割を説明することができる
- ②選択された作曲家の、演奏曲目を特定する
- ③世界の多様な文化から、音楽を歌唱、演奏する
- ④鑑賞、演奏する作曲家の出生国と、基本的な文化的特色を確認する

◆評価基準：児童は音楽と個人的感情を結びつける

児童は以下のことができるようになる：

- ①個人の音楽の選択を明らかにし、グループの音楽制作へ貢献をする
- ②選択した曲の感情的な面を特定し、説明する

これらの基準では、人間の感情や文化が、音楽制作に影響を与えていることを認識させることを指導目標としている。

「他分野との関連付け」での指導法は以下のように書かれている。

- ①AB、ABAなどの音楽形式を、カラーのブロックを用いて説明する
- ②児童が組み立てた指人形で作曲家の生涯を演じさせ、音楽の反応を伝える
- ③選択したレパートリーから代表的な形式を絵で提示する（例：《きらきら星》のABA形式を三角、丸、三角で表す）
- ④代表的な形式を身体の動きで表す（例：Aの部分で膝を継続的に叩く、Bの部分は肩を叩く）
- ⑤教室の楽器を使って強弱とアーティキュレーション（レガート／スタッカート）の対比を表せる素材を見つける
- ⑥様々な世界の文化からの子守歌の学習グループをつくる
- ⑦子守歌を歌いながら2拍子、3拍子で揺れる。児童は自分たちの実演に、感情的な特

徴を話し合い、そこに組み入れる

- ⑧ブラームスの《子守歌》を聴く。児童にブラームスの肖像画を見せ、彼の自然愛好家としての世評を伝える。ブラームスは、ウィーンの森林を散策し、子ども達にキャンディーを渡していた。彼の音楽が、子ども達への愛をどのように表現したのかを話し合う。

ここでは、視覚的、身体的なアプローチで、音楽形式について理解を深める指導をしている。ブラームスの鑑賞では、彼の人間性が垣間見えるエピソードを児童に説明している。作曲家の逸話と楽曲に関連性を持たせることにより、児童たちは、より作曲家や楽曲へのイメージが広がるのではないだろうか。

(4)「社会的・文化的資源」の指導内容

「社会的・文化的資源」では、地域との交流を中心に音楽学習が進められている。まず、指導では次の3つの基準を設けている。

◆評価基準：児童は音楽制作者を家族、学校、地域社会で認識する

児童は以下のことができるようになる：

- ①異なった音楽の楽器や様式を識別し、研究する
- ②音楽分野に特化したティーチング・アーティスト Teaching Artist¹⁾と活動をする
- ③インターネットより音楽の内容にアクセスする

◆評価基準：児童は自分たちのコミュニティーの生演奏に参加する

児童は以下のことができるようになる：

- ①お互いに演奏し、聴き合う
- ②特定の文化や時代の学問について、二つ以上の異なった分野のプロジェクトを与える
- ③二つ以上の異なった学問分野のプロジェクト

トの中に音楽を組み入れる

◆評価基準：児童は学校のコミュニティーとともに、音楽的経験を共有する

児童は以下のことができるようになる：

- ①図書館、コミュニティーの音楽学校、放課後プログラム、音楽家や、演奏会場といった、近所の文化的資源を認識する
- ②参加しているコミュニティーの演奏と、自分たちが作る音楽の見解を関連づける
コミュニティーと、音楽の関わりを学習する例としては、下記の指導法が記載されている。
- ①個々で物語を作り、ティーチング・アーティストと共同制作する。語りとまたは、フォーク・ソング、ブルーグラス、ミュージカルなどといった、物語を伝えられる音楽を聴く。
- ②学年で集まって、世界の音楽や文化を伴奏付きの歌で発表する。その際に、両親や下の学年の児童を招待する。
- ③既存の歌の旋律を使って、特定のトピック（例：恐竜）に関連した歌詞を書く
- ④音楽の演奏を企画している文化団体や学校に遠足で出向く。演奏と児童の学習を最大限に活かすために、事前に学習すること。
この指導例から、児童がプロの音楽家から指導を受けることによって、より実践的で創造的な音楽性を身につけることができる。また、ティーチング・アーティストとの交流により、音楽への関心、興味がより一層深まることが期待できる。

(5)「職業と生涯学習」の指導内容

◆評価基準：児童は生涯にわたる音楽に関わる様々な見解や選択を認識する

児童は以下のことができるようになる：

- ①演奏家、聴衆、教師、経営者、技術者など

の、音楽に従事する方法を認識する

- ②生演奏、録音公演、CD、ダウンロードなど、利用可能な音楽を認識する
- ③生活の中で、音楽が演奏できる様々な役割を探る

この評価基準を満たす指導として、下記の例が書かれている。

- ①コミュニティーの中の生演奏に参加する
- ②学校のコミュニティーとともに、音楽経験を共有する
- ③家族、学校、コミュニティーの中で音楽制作者を認識する
- ④物語を語り、リズム楽器を使って伴奏を作る。物語を上演し、それぞれの児童に、ナレーター、役者、音楽家、指揮者、舞台／衣装デザイナー、技術／照明／音声、作曲家、観客、ポスター制作者、座席案内係、チケット販売員などの役割を与える
- ⑤芸術専門職の中で代表的な人物を描く。絵と特定の職業への道を説明した文を載せて本を作る
- ⑥《線路は続くよどこまでも I've Been Working on the Railroad》、《口笛吹いて歩こう Whistle While You Work》、カミーノ・ラヴォサ Carmino Ravosa作曲の《一緒に働くこと Working Together》のような、職業に関する歌を歌う。自分たちの生活で知っている職業に反映した歌詞を作る
- ⑦地域で、音楽が演奏される場所を挙げる。学校、家、礼拝場、ショッピング・モールなど、日常生活での音楽の役割を認識する
- ⑧学校や地域のコンサートに参加する前に予期される振る舞いについてリストを作る。予想されることをクラス内で討論し、模範を作る
ここでは、音楽と社会との関わりを意識する

活動が多く含まれている。音楽に関わる職業が、作曲家、演奏家に限らず、その公演を作り上げるための様々な職業が存在していることを、児童自らが、公演をすることによって学ぶ。また、聴衆も重要な役割として公演に関わっている。聴衆としてのマナーを、教師から教えるだけではなく、児童で実演し、話し合っ

おわりに

『音楽における指導と学習計画』の第2学年の指導例では、児童が音楽を即興的に表現したり、児童たち自ら公演を行ったりするような、能動的な学習活動が多かった。これは、『音楽における指導と学習計画』の作成に、ニューヨーク市内の音楽団体が多く携わり、実践的に学習ができるように工夫されているからではないだろうか。

また、『音楽における指導と学習計画』では、音楽を「軸」に、歴史や社会、キャリア形成を学ぶことができる。なぜなら、それを容易にできる環境は、様々な文化が集まるニューヨークだからであり、コンサートホールや美術館、博物館が身近にある環境で、様々な分野を学習することが可能なのである。

そして、ティーチング・アーティストとの学習は、児童の音楽経験に刺激を与え、創造性を豊かにする。音楽を録音やインターネットで聴く時代になったからこそ、ティーチング・アーティストとの交流や、生の演奏は、児童の音楽経験に大きな影響を与えるのではないだろうか。

音楽は本来、歴史や社会など、他分野と相互的に学ぶことができる学問である。音楽を横断的に学べる仕組みがあれば、音楽を通して、新しい教養や知識を身につけることが可

能なのではないかと、筆者は考える。

【脚注】

- 1) 1990年代後半にニューヨーク州で始まった、長期的、短期的に学校で実技や教養を教える芸術家。

【参考資料】

新村元殖「ニューヨーク市における初等音楽教育（2）—ニューヨーク市の芸術教育標準とその音楽教育—」、2008年、鹿児島女子短期大学紀要第43号、151頁～171頁。

Carmen Fariña et al. “Blueprint for Teaching and Learning in Music.” The Center for Art Education, accessed September 9, 2017.

<http://schools.nyc.gov/offices/teachlearn/arts/files/Blueprints/Music/Blueprint%20for%20Teaching%20and%20Learning%20in%20Music%20June%202015.pdf>

“What is a Teaching Artist?” Association of Teaching Artists, accessed September 19, 2017.

<http://www.teachingartists.com/whatisa Teaching Artists.htm>